

人間性の錬磨

参与(常務待遇)
技術開発本部 研究首席

杉田 雄二

Yuji Sugita
Special Advisor
Executive Research Engineer
Research & Development Division

当社の技術開発本部は東海道線上りで名古屋駅から5つ目の大高町にあります。戦国時代には織田信長が砦を築き、今川義元と対峙した場所であり、近くには今川義元を討ち取った桶狭間の古戦場跡があります。この技術開発本部の一室に松永安左衛門が揮毫された一文が掲げられています。「私は曾って産業研究は智徳の錬磨であり是を以て社會に貢献すべきであることを悟りました 科学の進歩は累積と推理に由り無限の発達を遂げる性質のもので尽きる処を知りません 乍併 利己的な人間性は社會的に猶ほ一千年前の哲人に比し何羅の進境を示して居りません 研究調査に關する人々は能く之を知り内面的に人間性の錬磨を併せ續けられん事を祈って止まない次第であります 松永安左衛門は電力業界の泰斗であり、「電力の鬼」と呼ばれた大先輩であります。明治8年長崎県壱岐郡に生を受けた松永安左衛門は明治22年に慶応義塾に入学し、その後、福沢諭吉の娘婿である福沢桃介とともに電力事業の発展に貢献されました。戦後は国の管轄下にあった日本発送電の民営化に尽力され、大変な激論の末、9電力体制を推進されたことから「電力の鬼」と呼ばれるようになったと言われています。この一文は技術開発本部の前身である総合技術研究所発足4年目の昭和44年来所の折、当時理事長として(財)電力中央研究所に贈られていた一文から抜粋して揮毫いただいたものですが、人間の特性を見抜いた、松永安左衛門の強い思いを感じます。

しばらく前に隣国で発覚したES細胞をめぐるデータ捏造の事例は論外ですが、研究者には新しい発見をして名声を得たいとの思いがあります。遺伝子であるDNAが二重らせん構造をしていることを発見し、ノーベル賞を受賞したワトソンとクリックは偉大な研究者ですが、その影に隠れた多くの研究者については昨年出版された福岡伸一著「生物と無生物のあいだ」やニュートン編集長だった竹内均編「科学の世紀を開いた人々」にも詳しく書かれています。自ら試験することなく、他の研究者がこつこつと積み上げたデータを用いて二重らせん構造を思いついた若きワトソンとクリックがノーベル賞受賞という名誉を得たことに、研究



者の複雑な思いが感じられます。

私が勤務する技術開発本部は、エネルギーを低廉かつ安定にお届けする技術開発、エネルギーを効率的にお使いいただくための技術開発、そして地球環境の保全に役立つ技術開発を進めています。成果が人々に見えやすい研究分野と見えにくい研究分野があります。たとえば機器開発は成果が形となって現れることから見えやすく、劣化診断技術のような基礎的な分野は外部からは成果が見えにくいものです。ちょうどワトソンとクリックが美しい二重らせん構造を発表して人々の関心を呼び、それを支えた貴重な試験データはプロでなければ理解しにくいものであったということに似ています。成果の見えやすい研究分野は人々の関心を集めやすく、やりがいがある分野ですが、それだけに苦労も多くあります。競争は烈しく評価もすぐに出るからです。お客様ニーズの的確な把握、社会環境の変化への対応を怠ると、厳しい結果になります。反対に人々に成果の見えにくい研究分野はどうでしょう。この分野への人々の認識は「よくわからないけどプロがしっかりやってくれているはず」というものでしょう。私の専門が材料であることから、(独)物質・材料研究機構(旧：工業技術院金属材料技術研究所)の活動について少し触れてみると、そこでは10年以上にわたる長期の連続試験を行い、材料の特性を研究しています。いま私達が数十年にわたって機器を安全に使用できるのはこうした地道な研究のお陰なのですが、長い期間成果が出ないことからその必要性を人々に理解していただくのに大変な苦労があると思います。この分野で注意しなければならないのは、人々にわかりにくいために独善に陥りやすいことです。常に大局的な観点を持ち、自らを律することが大切です。

松永翁は「内面的に人間性の錬磨を併せ續けられん事を祈って止まない」と書かれました。いかなる研究においても一人で成果を出すことはありません。先人の研究成果を活用し、多くの人に支えられて初めて達成できるものです。私も「謙虚さ」を大切に、ともに歩みたいと思います。